

審議会における主な意見

<①人文・社会科学系も含む研究力向上・異分野融合>

- 選択と集中によりリソースが一部の大学に集中しないよう、分野の偏りや多様性にも留意し、国としても国際卓越研究大学と地域中核・特色ある研究大学という 2 つの支援施策をうまく調和して日本全体が底上げされるような形で進んでいくことを期待。
- 自然科学のみならず人文社会科学の融合は、これからの日本社会にとって大きな課題にチャレンジし価値を創造していくためにも非常に重要。
- AI が社会学や心理学等の知識を学習し、人文社会科学を勉強するというのは非常に面白い取組だが、実効性を高めるためには、自然科学系の研究者が何のためにこの人文社会科学の知識を活用するのかという目的意識を持つことが重要。また、自然科学系の研究者は、AI の回答を批判的に受け止めることができるよう、異分野の研究者間の多様な交流の場を作ることが必要。
- 欧米のリベラルアーツ教育の利点を取り入れつつ、日本独自の強みを生かした教育をゲートウェイカレッジで進めていくことが重要。また、学生が卒業後のキャリアに直結するスキルを身につけることができるよう、インターンシップを通じた企業との連携など、リベラルアーツ教育とキャリア教育を統合し、強化していくことが必要。
- 総合的な知の基盤に立脚した価値創造や人文社会も含め社会に貢献するための国際協働の展開が重要。
- 共同利用・共同研究拠点を通じて、拠点に集まってくる研究者が活発に議論し、一緒に研究することにより、東北大学の研究者も発展し、全国の大学の研究者にもその影響が及ぶ効果がある。

<②研究環境の整備・充実>

- 外国人研究者比率を 30%に上げることにについて、割合が増えると教育と研究の質も変わってくる。一部の部局に割合が偏ることがないように、満遍なく各部局で 3 割、大学全体で目指すことで国際性を進めていただくことを期待。
- 女性研究者の比率を 40%に上げることは非常にすばらしい数値目標である一方、実現するとなるとチャレンジングである。東北大学は、病児保育や夫婦の帯同といった様々な支援を女性研究者のためにしており、女性研究者の増加を率いていくことを期待。
- 若手の方が社会起業に取り組む起業家育成プロジェクトのように、学生たちが将来希望を持てる取組は非常に重要。
- 研究の自由を確保する一方、国際関係等を踏まえた経済安全保障輸出管理やセキュリティも重要。
- 研究インテグリティやセキュリティに関しては東北大学で模範となる取組に期待。

<③研究力の指標・評価・モニタリング>

- KPI については研究力の評価が非常に重要だが、外国人の研究者の比率や留学生の比率を重視するあまりに、本来やるべきことがないがしろにならないように対応することが重要。
- KPI について、現在の数値と 10 年後で差が開いているようなところは具体的な仕組みや仕掛けが必要。また、透明性の高い評価システムについて、プロセスの見える化や透明化によ

り、お互いオープンで客観的な評価をしていく組織風土も重要。

- 研究成果の最大化とは国内外の現在未来の他者による成果の受容の最大化を意味すると理解するため、研究活動を進める際どの部分を魅力の対象とし最大化していくか、様々な意見を聞きフィードバックループを回すような仕組みをつくっていくことを期待。

<④人材育成>

- 東北大の研究は世界トップレベルで進んでおり、研究と教育が両輪となり、人材の育成教育を進めることは非常に重要。
- 日本で研究力が低下したと言われているのは、研究員や研究人材が減少しているということがあると思うので、そのような人材を任期なしで備えていくことが非常に重要。
- 人材育成の観点から、一緒にやりたくなるようなことや新しく何かをつくっていきたくするようなことが起きる仕組みを作る努力と、また、この努力に対して学内外から具体的な改善提案を伴うフィードバックを受け止め活かす仕組みが重要。

<⑤その他>

- 全方位のデジタル変革やデジタルトランスフォーメーション推進も非常に重要。大学や企業において組織の縦割りや分断化が進む中、横串で横断型による全員参加型で組織風土を変革していく取組が重要。
- 世界トップレベルに位置する大学が現状抱えている課題に対し、日本の大学が先行して解決していくこと、より意欲的でチャレンジな研究領域を開拓していくことを、国際卓越研究大学の展開軸として取り入れていくことが重要。
- 日本の特徴、組織の強み、考えの強み、研究の強みをぜひ生かして、世界トップレベルのうちの one of them ではなく、日本的なものを追加して世界のトップになることを期待。

以上